

徳島県美馬市（国内 47 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 2 月 9 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、山間部に近い平野部に位置し、付近は水田や休耕地に囲まれている。
- ② 当該農場に隣接して幅約 200m 程度の貯水池があるが、飼養管理者によると、野鳥対策として、昨年 9 月中旬から水を抜いていたとのことであり、調査時には全く貯水されていなかった。農場裏にある幅約 20m のレンコン畑については、湧水であるため水を抜くことができないが、水鳥等が飛来するのを見たことはないとのこと。農場から約 1.7km の位置には河川があり、調査時にはカルガモ 127 羽、マガモ 93 羽等、250 羽以上の水鳥類が確認された。
- ③ 当該農場には 3 棟の開放鶏舎があり、発生鶏舎は、最も道路側に位置する鶏舎であった。発生時には全ての鶏舎で肉用鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎の 1 日あたりの死亡鶏は、2 月 5 日までは 1 日あたり 0~3 羽程度で推移していたとのこと。
- ② 2 月 6 日、発生鶏舎で午前 3 羽、午後 4 羽の死亡鶏が確認されたことから、管理会社の農業指導員に相談したところ、換気不足の可能性を指摘されたため、鶏舎壁面下部の換気口の一部を開放したとのこと。
- ③ その後も死亡羽数が減少しなかったため、8 日に管理会社の獣医師に相談し、当該獣医師が農場で簡易検査を行ったところ、陽性となったとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では専属の飼養管理者 1 名が鶏舎管理を行っていた。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎においては、毎日最低 2 回、鶏の健康観察と死亡鶏の回収、給水、給餌装置の確認等を行っていたとのこと。
- ③ 鶏の出荷や出荷後の堆肥の搬出の際には、管理会社の専門部門の従業員が作業を行うが、当該農場からの直近の出荷は 2 ヶ月以上前であった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、農場に入る際は、農場専用の上着、長靴及び手袋を着用していたとのこと。また、鶏舎に入る際は、長靴の交換及び手指消毒を行っていたとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養鶏への給与水は水道水を使用していた。
- ④ 鶏舎の鶏糞は、出荷後以外は搬出されていなかった。
- ⑤ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、系列農場で共有している死体置き場に運んでいた。死体置き場の出入りの際には、動力噴霧器で車両の消毒を行っていたが、長靴等の交換はしていなかったとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、農場全体でオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、普段は農場内の通路及び農場入口周辺の道路に消石灰の散布を行っていたとのこと。
- ⑧ 飼養管理者によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、消石灰帯を通過し、飼養

管理者は手動の消毒スプレー、飼料運搬業者は持参した蓄圧式噴霧器で車両を消毒していたとのこと。また、管理者の車両が出入りする際には、運転席のマットもスプレーで消毒していたとのこと。

- ⑨ 管理獣医師によると、農業指導員や管理獣医師が農場を訪問する場合は、各農場専用の長靴、衣服、手袋を着用していたとのこと。
- ⑩ 当該農場の鶏舎はいずれも同じ構造で、壁面に2段に分けて開口部があり、気温に応じて跳ね上げ式の戸を開閉することで換気していた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 鶏舎の開口部のうち、上段には直径2.5cm程度の金網と防鳥ネットが張られ、下段には5cm×3cm程度の金網が設置されていたが、一部に隙間や破損が認められた。これらの開口部の外側には、跳ね上げ式の戸が設置されていた。なお、出入口の扉の周囲に隙間が認められた。
- ② 飼養管理者によると、農場敷地内ではカラスを確認することがあるとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミを見かけることはないが、壁材が嚙られる等の被害はあるとのこと。